**平成２９年度　横浜北ブロック会議　議事録**

日時：　　平成29年　9月20日(水)14～16時半

於：　　　都筑ハートフルステーション

出席施設：ウェルケア新吉田、あすなろ、ソフィア都筑、ナーシングプラザ港北、ファイン新横浜、ヒルトップ池辺、ベルディーナ高田、うしおだ老健やすらぎ、都筑ハートフルステーション

出席人数：14名

ハートフル施設内見学

**§人材を定着させるための工夫**

待遇の改善

ライフワークにあった勤務体制(子育て世代に合わせたシフト)

面談をこまめに行なう。

職員がやりたいレクを手伝う等やりがいをつくる。

職員間のコミュニケーションを作り、話しやすい環境作りをする。

定期的に配置転換を行なう。

小さな不満をすぐに解決するようにする。

無資格・未経験や外国人の職員を配置する。

また、資格取得する際に研修を日勤扱いとする。

中堅職員をつなぎとめるために、モチベーションの一つとしてリーダーを任せる。

**§事故報告書について**

**1、書式を各施設から説明**

　病院と同じ報告書を使用。転倒の場合、必ず絵で記入する。事故レベルがある。

居室アセスメント、ヒヤリハットがある。

4Ｒ法を用いる。

事故報告書はＰＣソフトに入っている。

家族への連絡マニュアルある。フローチャートがあり当日第一発見者が家族へ説明をする。

**2、繰り返すご利用者への対策**

　事故後、他職種へ相談する。事故防止委員会にて検討会を設ける。家族にリスクを説明し情報共有をする。申し送り後に時間が経つと忘れてしまう事があるので、一目でわかるように工夫する。

カ―デックスに2週間報告書を挟み、皆の目を通す様にする。

早急に上司に報告し、その場ですぐに報告書を記入をする。

インシデントを書くのに労力がかかるため、５cm以内の内出血は申し送りに残す。

介護ミス等は必ず報告書を記入する。具体的に対策をたてるために要因分析を細分化し、一つの事故に対して、要因分析を出来るだけ多く挙げてもらう。

書きやすいようにレ点チェックする。

プロテクターパンツやアームカバー等使用し、再発防止に努める。

防止策が無い場合には、部長に了承をもらい、箇条書きにて報告する。

**3、教育方法　レポート記入、要因の気付き、対策等について**

カルテなどを見ながら、根拠を説明する。新人にオリエンテーションで報告書の書き方を伝える。勉強会で外部に指導してもらう。

訴訟等他職種が絡む場合には、他職種も交えて話す。

入所時にADL表で確認し、未然に事故を防止できるようにカンファレンスを行なう。

インシデント発生時には、NS・CWで共有する。

対策を忘れない様に、居室に貼り紙をする。

居室アセスメントシートは、リハビリ職員・NS・CW皆が閲覧できるようにする。

安全推進者が各フロアにいるため、レポートのチェックをおこなう。

安全対策委員・看護師長・勉強会を受けた職員が指導する。

**ブロック長より**

次回開催　　１２月　　若葉が丘にて可能か確認します。

　議題：介助量の多いフロアに対しての対策をしているか

　　　(排泄・食事介助・センサー使用・特浴・立ち上がり・付き添いが必要な利用者など)

　　　フロアの現状を伝える。施設全体での取り組みを報告する。